

要望書を読み上げる草部代表ら＝名張市役所



震災がれき

母親ら受け入れ反対

伊賀・名張市長に要望

名張市の子育て中の母親らのグループ「つながる食を考える会 こともとごほん」と伊賀、名張両市民の東日本大震災被災者支援グループ「なな色の空」は24日、震災がれき受け入れに反対する要望書・公開質問状を両市長あてに提出した。

検査や補償など質問状も

要望書では、伊賀地域で震災がれきの焼却、同焼却灰、放射能汚染されたふつうごみの焼却灰の3点を受け入れないよう求めている。さらに公開質問状として、震災後の焼却灰受け入れ状況、汚染の有無を確認するための検査体制、受け入れにより伊賀地域の農作物や観光に風評被害があった場合の補償など7点を質問し、30日までの回答を求めている。

名張市役所には、こともとごほんの草部豊美代表(45)＝名張市つつじが丘南一番町＝と、原発事故の影響で福島県から一家で避難してきたなな色の空の村上日苗代表(39)＝伊賀市高尾

＝ら約50人の母親らが訪れた。要望書に亀井市長は「今後、処理施設を有する伊賀市と共同歩調をとりながら、市民の安全・安心の確保、風評被害の防止など市民の理解を得ながら慎重に取り組みたい」とのコメントを出した。

伊賀市役所には約40人が訪れた。村上代表が「明るい未来のために、大地と水と空気を守って下さい」と訴え、富岡通郎・市住民生活調整監らに要望書を提出した。

(岡本真幸、保田達哉)